

『開会の挨拶』

FEEL J 加藤千昌

徳川家康の出身地、三河。

現代の東京に暮らしているとあまりなじみのないひとが多い地域ではありますが、江戸幕府の創始者、家康のふるさとです。

FEEL Jは、伝統工芸の技術を活かすためのもの作りに取り組む中で、三河の伝統工芸士と繋がり、この土地に関心を持つようになりました。

江戸文化発展の基礎となる400年前、三河武士たちは幕政安定のために重要な役割を果たしました。また、江戸のまちづくりの基礎は三河人によって行われたといっても過言ではありません。幕府内の要職にも多くの三河出身者が着任し、たとえば、将軍の食事を管理する御膳奉行には必ず三河出身者が任命されました。

一方、江戸のまちづくりが進むと同時に、爆発的に増加した人口の食を確保することが必要になります。将軍や幕臣たちの好みに合わせて三河など東海地域の加工品が持ち込まれ、野菜も種が持ち込まれて盛んに栽培されるようになりました。

家康没後400年を迎える今、江戸と三河の深い関わりを食文化目線で探ります。

本日は最初に、もとは江戸のまちづくりと共に発展した江戸東京野菜について、また江戸に大きな影響を与えつつも独自の発展を遂げた三河の食材についてお話を伺い、その後、実際の試食をしながらご歓談の時間を設けています。

本日はご紹介する三河の食材、FEEL Jが三河と取り組む工芸、講演者の書籍もご購入も可能です。

まずは江戸東京・伝統野菜研究会 会長 大竹道茂様に『江戸東京野菜のルーツ』についてお話しいただきます。